

# 平成29年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-4号)

農林総合研究センター  
平成29年6月19日調査

## 気象経過

< 平年対比 >

### 【平均気温】

- ・ 6月第2半旬は、金沢は低く、輪島は並 (平年差：金沢-0.6℃、輪島±0℃)
- ・ 6月第3半旬は、金沢、輪島ともかなり低い (平年差：金沢-3.1℃、輪島-2.9℃)
- ・ 6月第4半旬は、金沢は並、輪島はかなり低い (平年差：金沢-0.3℃、輪島-1.5℃)

### 【日照時間】

- ・ 6月第2半旬は、金沢は少なく、輪島は並 (平年比：金沢 93%、輪島 96%)
- ・ 6月第3半旬は、金沢はかなり多く、輪島は多い (平年比：金沢 161%、輪島 117%)
- ・ 6月第4半旬は、金沢、輪島ともかなり多い (平年比：金沢 181%、輪島 127%)

### 【降水量】

- ・ 6月第2半旬は、金沢は並、輪島はかなり少ない (平年比：金沢 91%、輪島 37%)
- ・ 6月第3半旬は、金沢、輪島ともかなり少ない (平年比：金沢 0%、輪島 0%)
- ・ 6月第4半旬は、金沢、輪島ともかなり少ない (平年比：金沢 0%、輪島 0%)

### 【1ヶ月予報】

6月15日発表の1か月予報(6月17日～7月16日)では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。

## 生育概況等

### 【本田の生育】

1. 草丈は、コシヒカリは平年比76～101% (県平均88%：加賀：90%、能登：85%)、と平年および前年に比べ短い。ゆめみづほは、近年比75～95% (県平均88%：加賀：87%、能登：91%)と加賀地域は近年並で前年より短く、能登地域は近年よりやや短く、前年より短い。

2. 茎数は、コシヒカリは平年比63～139% (県平均97% 加賀：101%、能登92%)と平年および前年並。

ゆめみづほは、近年比73～139% (県平均100% 加賀：98%、能登107%)と近年及び前年並。

ひやくまん穀は、平均258本/m<sup>2</sup>(株当たり県平均14.0本 加賀23.3本 能登8.0本)と移植の遅い能登地域では分けつの発生が少ない。

3. 葉齢は、コシヒカリは平年比89～109% (県平均96%：加賀：-0.2葉、能登：-0.4葉)、ゆめみづほは近年比89～103% (県平均97%：加賀：-0.3葉、能登：-0.3葉)、ひやくまん穀は、県平均7.3葉(8.9～5.6葉)となっている。

葉齢展開は、コシヒカリは平年に比べ加賀地域で1日程度、能登地域では3日程度遅い。ゆめみづほは加賀地域、能登地域とも近年に比べ1～2日程度遅い、

4. 葉色の発現は、コシヒカリ、ゆめみづほとも平年並。ひやくまん穀はコシヒカリ並となっている。

### m<sup>2</sup>当たり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	469本	(平年比 97%	前年比 90%)	25.9本/株
	加賀	505本	(平年比 101%	前年比 95%)	27.5本/株
	能登	413本	(平年比 92%	前年比 83%)	22.5本/株
ゆめみづほ	県平均	527本	(近年比 100%	前年比 90%)	29.2本/株
	加賀	550本	(近年比 98%	前年比 91%)	31.1本/株
	能登	481本	(近年比 107%	前年比 91%)	25.9本/株
ひやくまん穀	県平均	258本	(移植 5月12日)		14.0本/株
	加賀	417本	(移植 5月6日)		23.3本/株
	能登	152本	(移植 5月17日)		8.0本/株

## 【病害虫の発生状況】

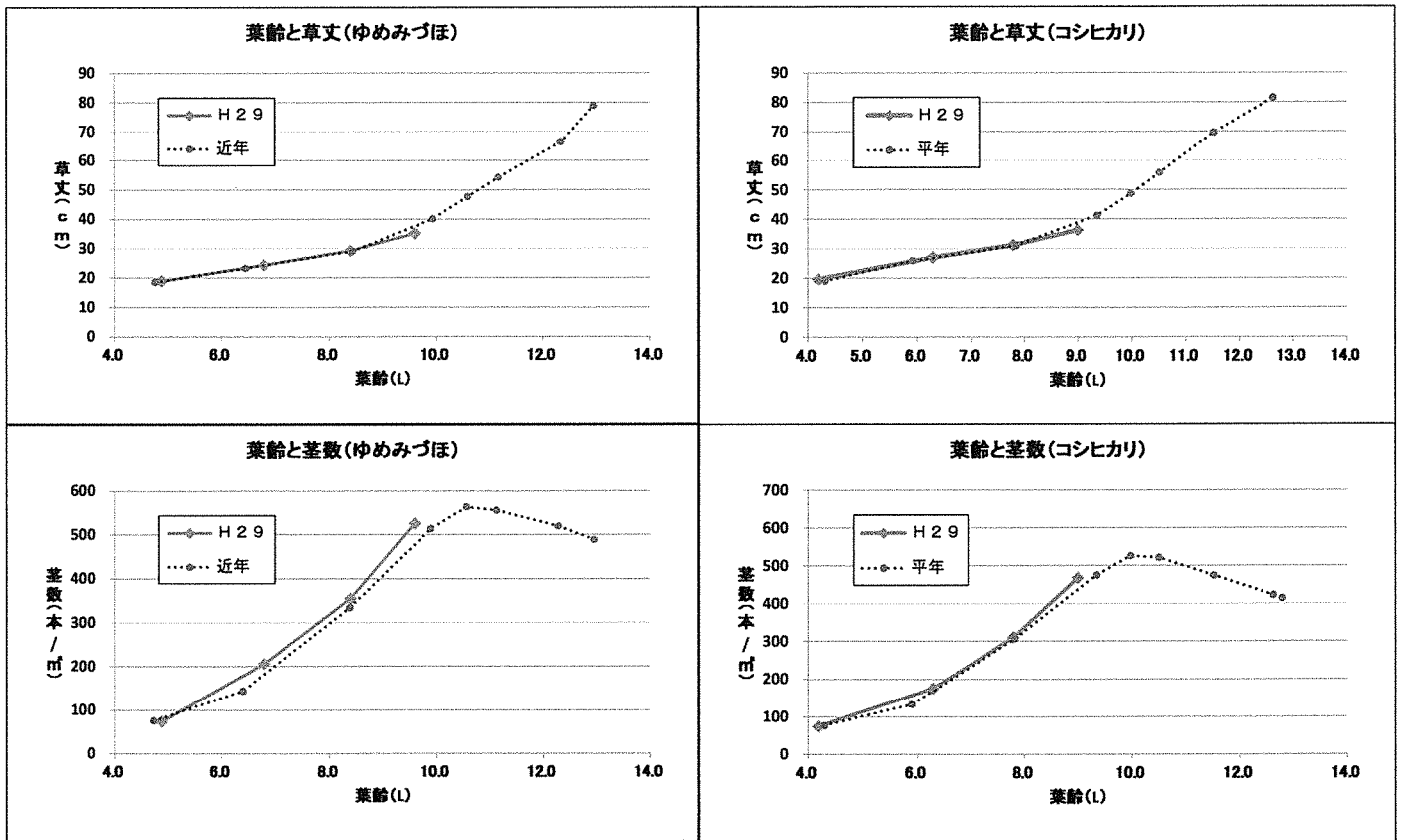
雑草地におけるカメムシ類の発生は平年に比べ多く、特に飛翔性カメムシ類が多い。  
[病害虫発生予察注意報第1号（平成29年6月15日付）参照]

### 当面の対策

1. 乳白粒の発生防止のため、中干しを継続し、遅発分げつの発生抑制、籾数過剰防止に努める。なお、中干しを行っていない圃場では、直ちに中干しを実施する。
2. 用水量が十分確保できない地域においても、根の活力向上を図るため、田面の亀裂が生じない程度に中干しを実施する。
3. 5月20日以降に移植が行われたほ場においても、分げつの発生が旺盛となることが見込まれることから、中干しを早急に開始する。
4. 中干し効果を高めるため、溝切りを実施する。なお、溝切り間隔はほ場の排水条件に応じ、10～15条間隔とし、末端を排水溝に接続する。
5. 早生の中干しについては、幼穂形成期を迎える6月25日頃までとし、以後、間断通水による飽水管理を行う。なお、加賀地域の生育の早いほ場では幼穂が確認(0.1～0.5mm)されている。
6. 幼穂形成期（出穂前25～15日）に18℃未満の最低気温が予想される場合は、水深10cm以上の深水管理とし、不稔籾の発生防止に努める。
7. 稲体の健全化を図るため、ケイ酸質資材が未施用のほ場では直ちに施用する。
8. 早生の生育は近年よりやや遅れているので、分施体系による施肥管理を行う場合は、幼穂を確認し施用すること。なお、1回目の穂肥は幼穂1～2mmを確認したうえで施用する。
9. 斑点米カメムシ類の発生密度を下げるため、生息場所である畦畔や農道の除草を徹底する。除草を集落など地域全体で一斉に実施すると密度低下の効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。
10. 過去に白葉枯病が多発した地域で予防剤を箱施薬していない場合は、予防粒剤を6月20～30日に散布する。

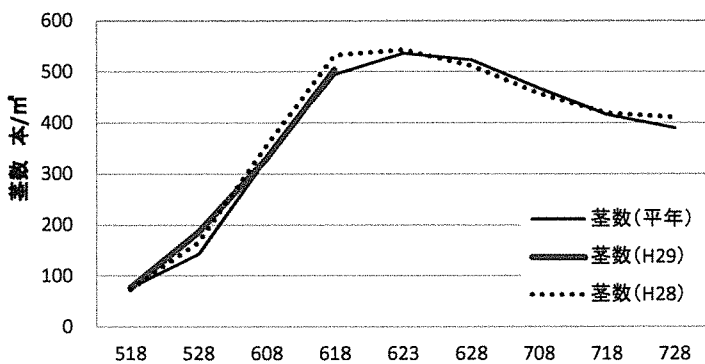
<参考：草丈の伸長および茎数の増加傾向>

- ・葉齢を基に草丈の伸長および茎数の増加を平年と比較すると、コシヒカリ、ゆめみづほともに草丈は平年並、茎数増加についても平年並となっており、葉齢の展開速度に見合った生育進度となっている。

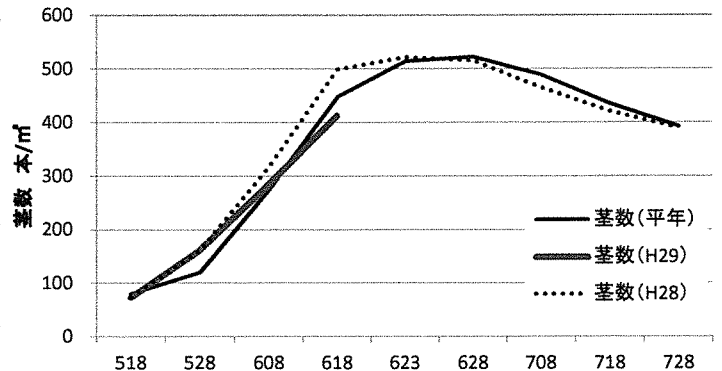


- ・また、調査日を基にコシヒカリの茎数増加を平年及び前年と比較すると、加賀地域では平年および前年並み、能登地域は加賀地域に比べやや少ないものの、平年並および前年並となっている。

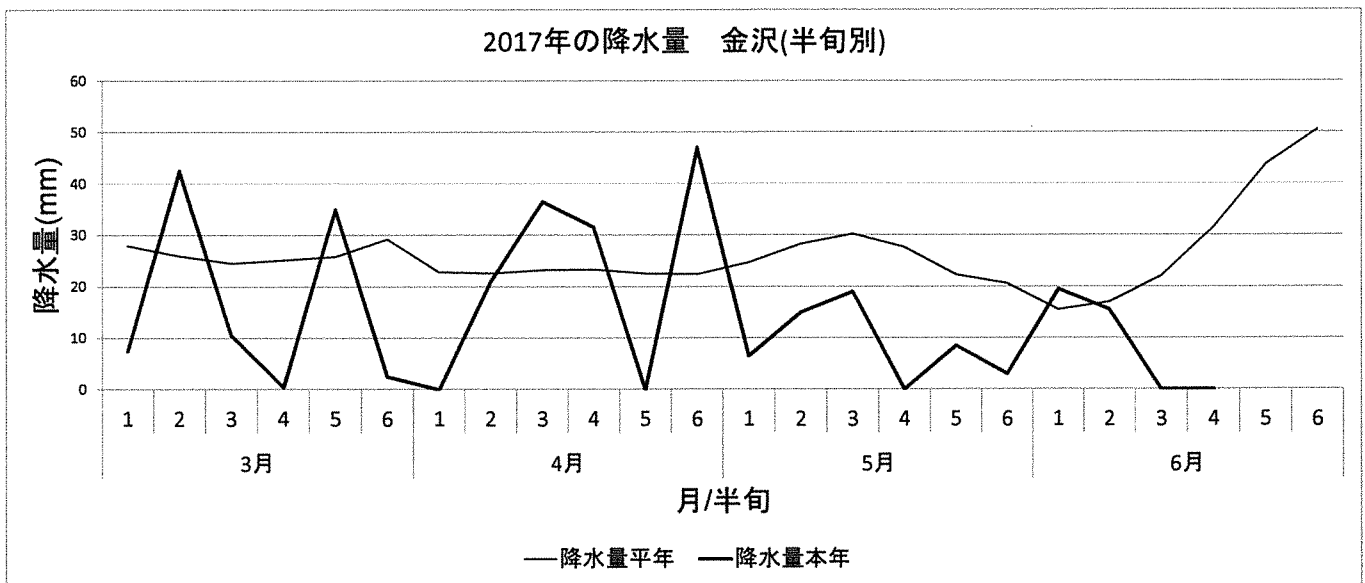
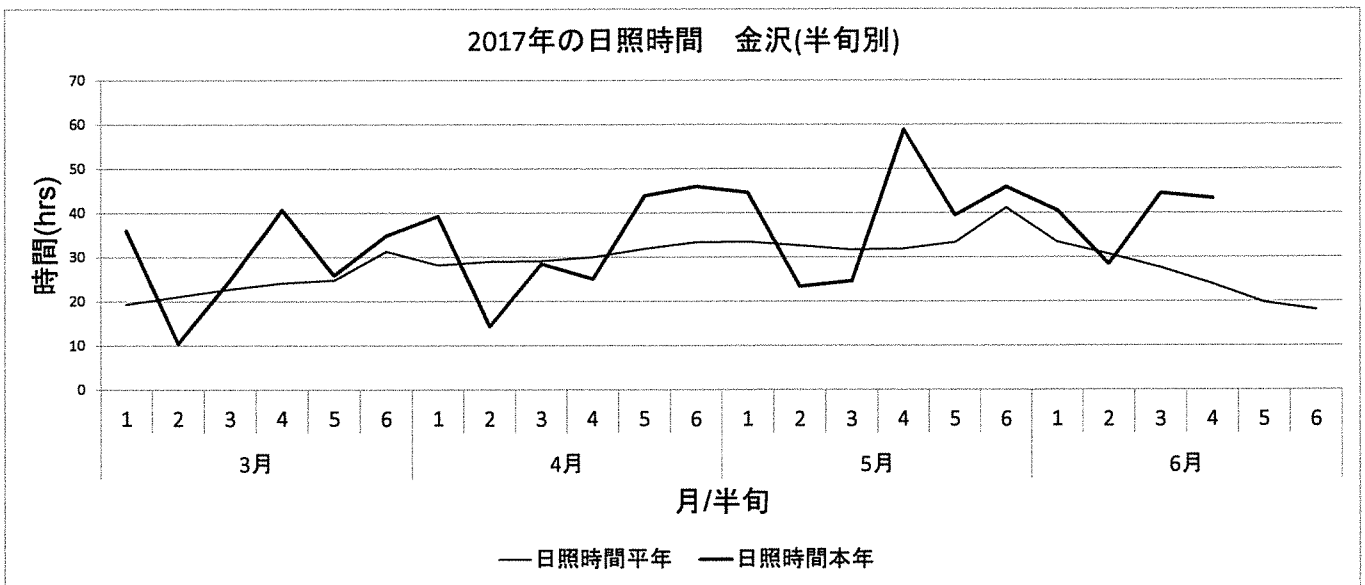
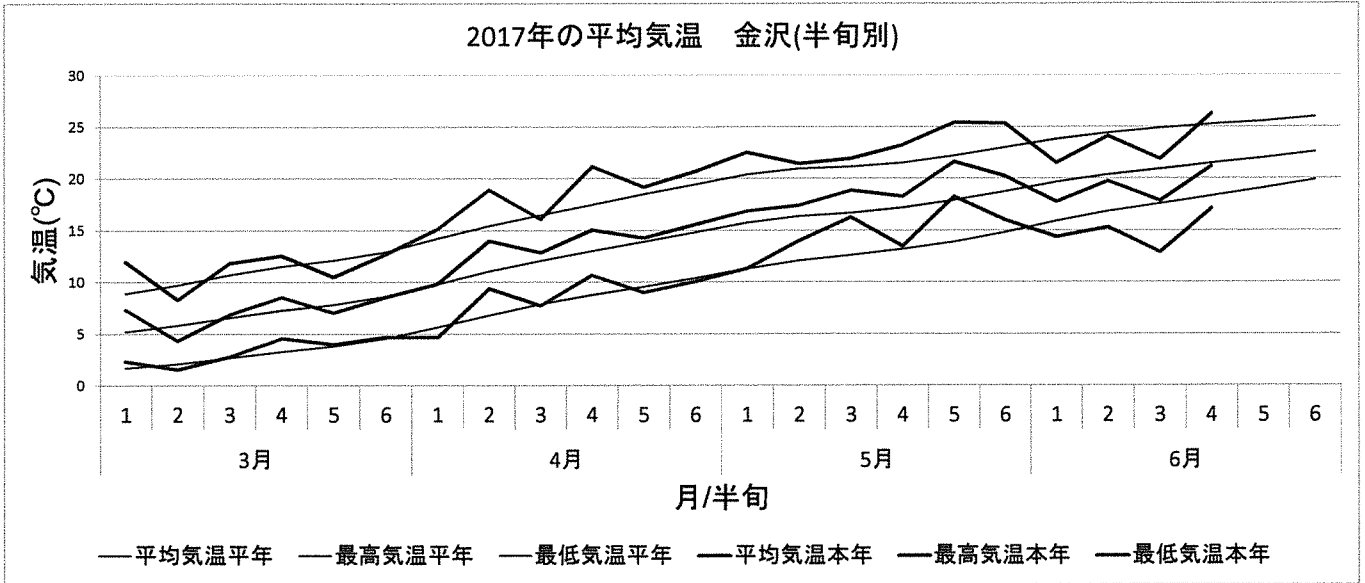
茎数の推移(コシヒカリ:加賀地域)



茎数の推移(コシヒカリ:能登地域)

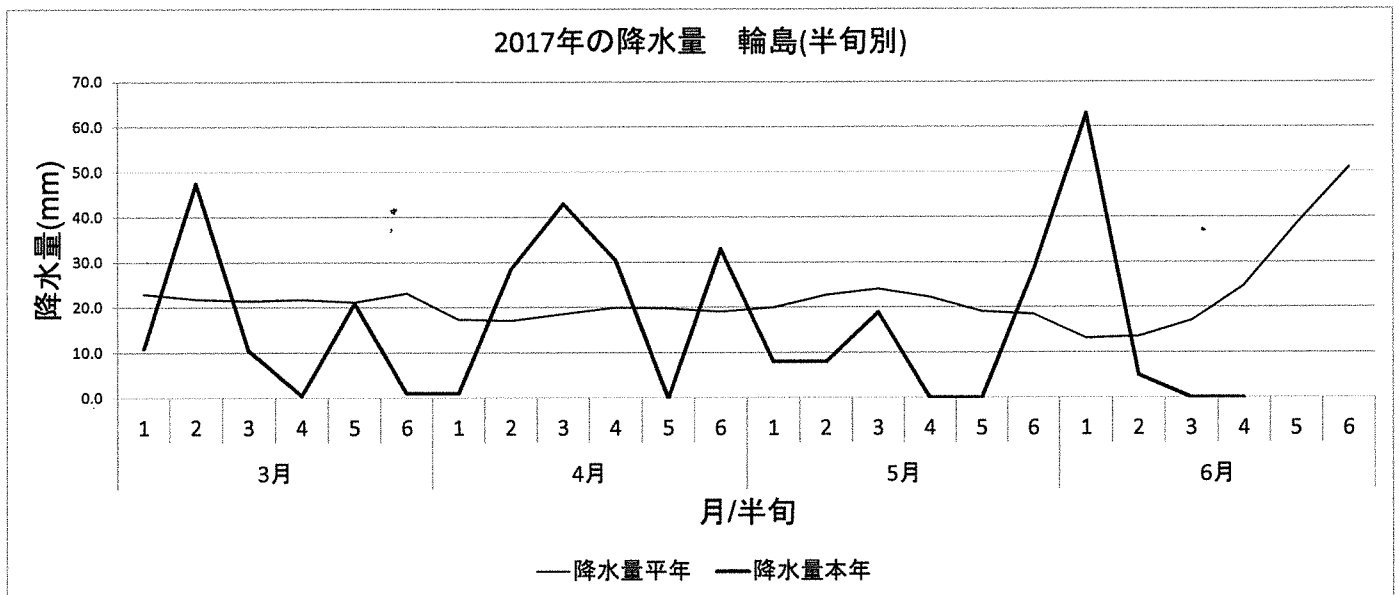
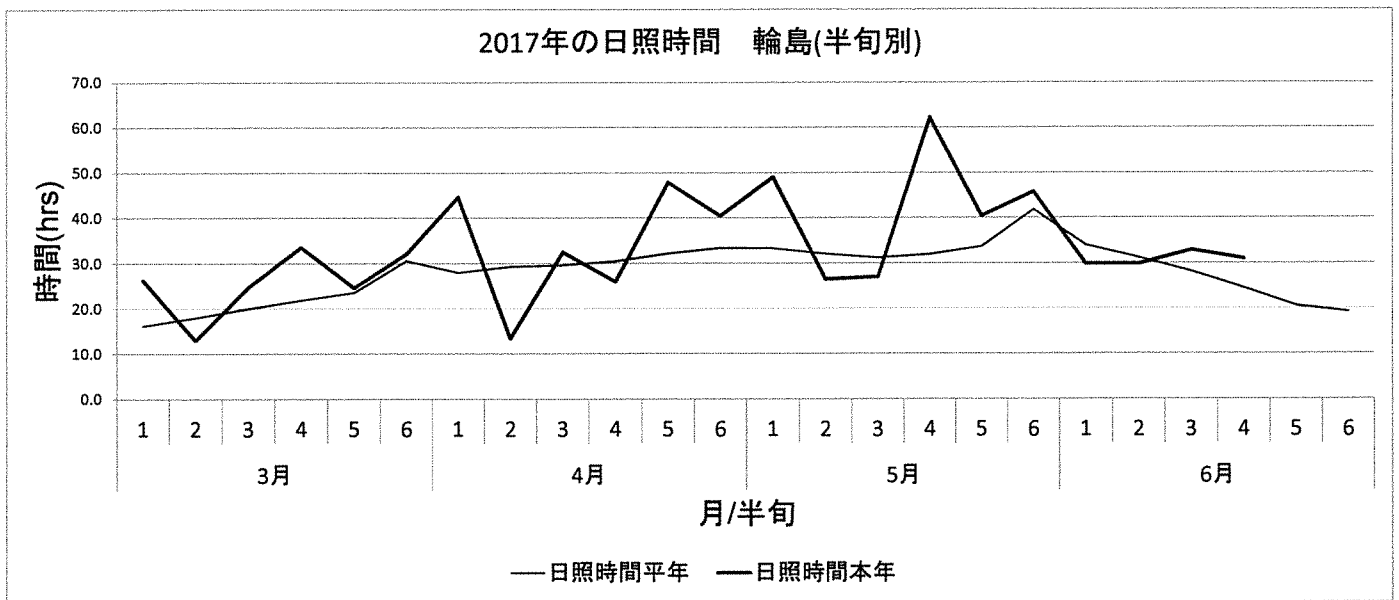
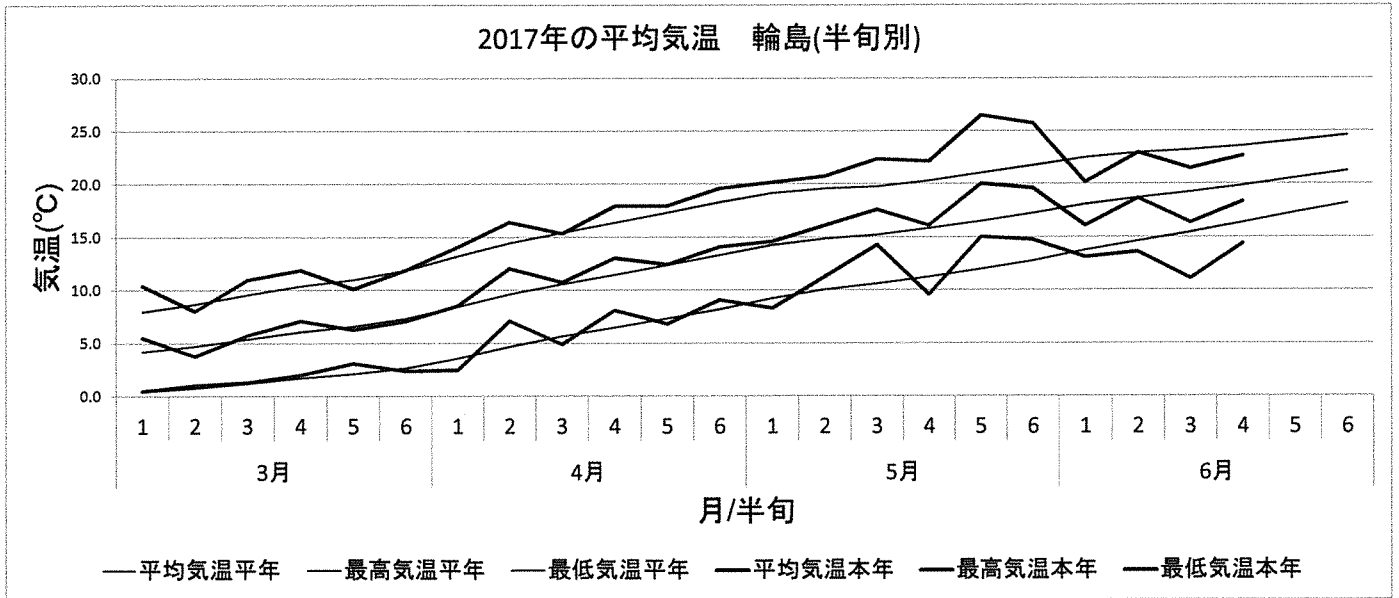


# 気象経過イメージ (金沢気象台)



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成  
 ※平年値は過去30年間(昭和56年～平成22年)の平均値  
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

# 気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成  
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値  
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い